

日本における令和6年度の人権啓発重点目標

『誰か』のこと じゃない。



陽口（ひなたぐち）

●右のポスターを見てください。気がついたことはありますか。

上半分に「陽^{ひなたぐち}口」と書かれています。聞いたことはありますか。おそらく少ないのではないかと思います。それでは、下から上に書かれている「陰口」はどうでしょう。これは皆さん知っていますよね。

実は、「陽口」ということばは、「陰口」の反対の意味で、最近ネットを中心に使われるようになったことばのようです。本人がいないところでその人をほめることばのことです。

●あるスポーツのコーチの話です。

「中学時代、私がセクションをチームメイトと受けに行った時のことです。チームメイトは他のチームの選手とも仲良くなっていたのですが、帰り際、チームメイトが私に言ったのです。『一緒に話していたやつが、お前のことうまいねって言ってたよ』と。

また、大学生になって、コーチとなって戻ってきた時のことです。自分が幼い時に教えてもらったベテランのコーチの方が、まだいたのですが、仲間から言われたのです。『ベテランのコーチが、お前がコーチとして戻ってきてうれしい。あいつは教えるのがうまいからなって言ってたよ』と。

私は、この陽口が自分の軸になっています。陽口をもらうと、その人のことが信頼できるのです。だって、自分がいなくなっても、自分のことをほめてくれる人なんですから。

今、私は陽口をめちゃめちゃ使います。試合に出ている選手に直接ナイス！というより、ベンチにいる選手に、“あの選手うまくなったよな”といったほうが、成長率が早いです。」

●あるお寺のご住職の話も紹介します。

「友人との食事会に行ったのですが、ちょっと聞いてよ、と始まった彼の話は、職場の上司や仲間をとて信頼しているようで、すてきな一面を教えてもらったのです。そんな彼の話を聞いていると、自分もその方たちと一度会ってみたい、自分もその方たちのように、助け合っていける人間になりたいと、活力がわいてくるのがわかりました。陰口をいうより、陽口を言う方が、たとえその人がその場になくても、そこにいる人たちを笑顔にするということをつくづく感じました。」

いかがですか。あなたも、陰口より陽口をしてみませんか。

